

# いちご「栃の峰」の花芽発育調査

## 1. 試験のねらい

栃の峰の先青果の発生は窒素と関係が深く、花芽発育ステージとの関連では雄ずい初生期～雌ずい形成期頃に窒素を施用した場合影響が大きいことが明らかとなった（成果集第13号）。そこで、作型ごとに花芽の発育過程を調査し、先青果の発生防止技術を確立する。

## 2. 試験方法

平地育苗による促成栽培と半促成栽培の2作型を供試し、促成栽培は7月28日採苗仮植、9月24日定植、10月23日保温開始、半促成栽培は8月17日採苗仮植、10月25日定植、12月17日（5℃以下の低温遭遇時間350時間）保温開始とした。先青果の発生が多い頂花房と腋花房について、1調査時6株を用いて花芽の発育過程を調査した。

## 3. 試験結果および考察

(1) 促成栽培：頂花房の花芽分化期は9月25日頃で、その後花芽は順調に発育し、11月20日頃に開花した。腋花房の花芽分化期は10月27日頃で、その後の発育は頂花房に比べてやや緩やかで、1月5日頃に開花した。先青果に影響が強く雄ずい初生期～雌ずい形成期の時期は、頂花房では10月15日～10月31日頃、腋花房では11月20日～12月10日頃であった（図-1）。

(2) 半促成栽培：頂花房の花芽分化期は9月30日頃で、花器完成期までは順調に発育したが、それ以後出蕾期まではかなりの時間を要し、1月3日頃に開花した。腋花房の花芽分化期は10月30日頃で、それ以降は順調に発育し1月25日頃の開花となった。先青果に影響が強く雄ずい初生期～雌ずい形成期の時期は、頂花房では10月25日～11月15日頃、腋花房では11月20日～12月10日頃であった（図-2）。

## 4. 成果の要約

栃の峰の作型ごとの花芽発育過程を調査し、先青果の発生に強く影響する時期が明らかになった。

（担当者 栃木分場 植木正明）

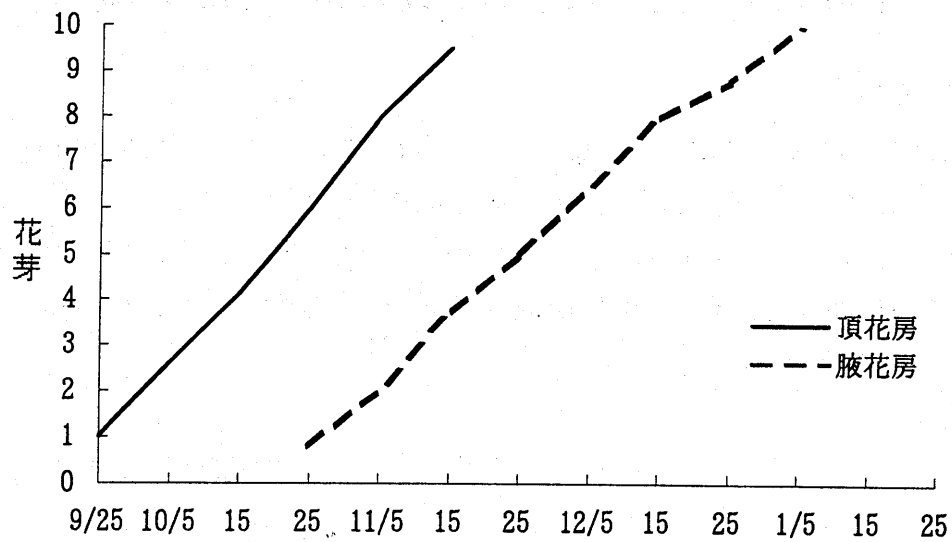


図-1 促成栽培での花芽の発育過程

分化期：1、ガク片初生期：2、花弁形成期：3、雄ずい初生期：4、  
 雄ずい形成期：5、雌ずい初生期：6、雌ずい形成期：7、  
 花器完成期：8、出蕾期：9、開花期：10

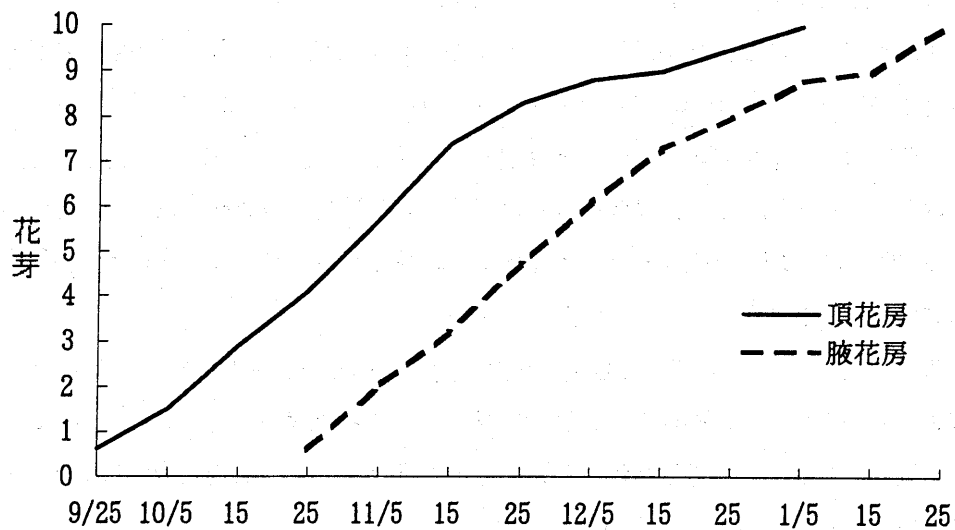


図-2 半促成栽培での花芽の発育過程